

子ども読書支援センターニュース No.157

2017. 6. 30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成29年7月4日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《6月のおはなし会で使った本》

『カタツムリくん』 今森光彦/写真・作 教育画劇 2006

『てんてんてん』 和歌山静子/さく 福音館書店 1998

『くだもの』 平山和子/作 福音館書店 1981

『ちいさなきいろいかさ』 森比左志/作 西巻茅子/絵 金の星社 1981

『のりものいろいろかくれんぼ』 いしかわこうじ/作・絵 ポプラ社 2007

★第2回新刊児童書閲覧会

○日時：平成29年7月28日（金）10：00～12：00 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等 ○定員：30名（要申込み・先着順）

○申込方法：平成29年7月26日（水）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

★「児童文学作家まはら三桃（みと）さんと語る会」

○日時：平成29年8月18日（金）13：30～15：30 ○場所：山口県立山口図書館 第1研修室

○対象：県内の中学生、高校生 ○定員：30名（要申込み・先着順）

○持参物：お気に入りのまはら三桃さんの作品1冊（個人の本には著者のサインも可能）

○申込方法：平成29年8月4日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み（学校からでも個人でも可能）

★学校図書館セミナー

○日時：平成29年8月23日（水）9：30～16：00 ○場所：山口県教育会館 第一研修室（5F）

○講師：徳田悦子氏（東京学芸大学非常勤講師）

○内容：探求的な学習の進め方、情報カードを活用した探求的な学習の実際

○対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、市町教育委員会指導主事等

○持参物：図書2冊（日本の文化を紹介するために活用できるもの）、『朝日ジュニア学習年鑑』1冊（年度は問わない）、ネームペン（黒）○定員：90名（要申込み・先着順）

○申込方法：平成29年8月1日（火）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『えいえいえいえい』 佐藤可士和/絵 谷川俊太郎/字 クレヨンハウス 2017.4 ¥1200

「ぼいぼーん！」と、黒い絵の具が飛び散っている。「ざっぼーん ぞぞぞざーん」と、青い絵の具が降ってきた。絵や言葉の感じ方は、本を読む人の感性によって、みんな違って当たり前。自分が感じたとおり、自由に声に出して楽しもう。谷川俊太郎が、多彩な画家やアーティストとつくる「あかちゃんから絵本」シリーズ第13作。

<絵本-3, 4歳から>

『このあいだになにがあった？』 佐藤雅彦+ユーフラテス/作 福音館書店 2017.5 ¥900

「毛がもこもこの羊」と「短い毛の羊」の2枚の写真。この写真の間には、どんなことがあったのかな？「湯船に浮かんだおもちゃ」と「洗い場に転がったおもちゃ」。この間には、何が起こったんだろう。並んだ2枚の写真から、その間に起こった出来事を推理する、知的好奇心を刺激する科学写真絵本。NHK教育テレビ番組「ピタゴラスイッチ」等の企画で知られるグループの著作。

『ぼくのつくりかた』 たけうちひろ/文・切り絵 出版ワークス 2017.4 ¥1600

まあるいりんご、ながーいキャンディ、あまーいバナナ、ちゃいろいドーナツ。色とりどりの材料を迷路のような黒い工場に入れると…。ぽんっ、ぽんっ、ぽんっ。おサルさんたちのできあがり。身近な食材などが「変身」する様子が、緻密な切り絵と楽しい擬音で表現されている。読み聞かせにも向く。2016年イタリア・ボローニャ国際絵本原画展入選作。

<絵本-5, 6歳から>

『エリック・カールのイソップものがたり』 エリック・カール/再話・絵 木坂涼/訳 偕成社 2017.5 ¥1300

「ライオンとネズミ」「ウサギとカメ」「カラスとクジャク」「アリとキリギリス」など、よく知られた「イソップ物語」をエリック・カールが作者流に味付けし、1話ごとに美しいコラージュで表現した絵本。そのため、知っている話とちよっと違う話もある。ページの下に「ゆっくりでも、いい結果は得られる」などの教訓がついている。全11話収録。

＜絵本—小学校中学年から＞

『猫魔ヶ岳の妖怪 福島の伝説』 八百板洋子/再話 斎藤隆夫/絵 福音館書店 2017.3 ¥2000

福島に伝わる伝説から、会津地方の伝説「猫魔ヶ岳の妖怪」、伊達市山舟生の伝説「天にのぼった若者」、福島市笹木野の伝説「大杉とむすめ」、福島市松川の伝説「おいなりさまの田んぼ」の計4話を収録した絵本。心にずしんと残る話や、読みやすい軽妙な話などバラエティーに富む。絵と話がマッチしていて親しみやすい昔話絵本。

＜絵本—小学校高学年から＞

『あかい自転車 ビッグ・レッドのながい旅』 ジュード・イザベラ/文 シモーネ・シン/絵 志多田静/訳 六耀社 2017.4 ¥1600

北アメリカのレオ少年は、大車こしていた自分の赤い自転車「ビッグ・レッド」を、貧しいアフリカの人々に寄付することにした。長い船旅を経て、アフリカのブルキナファソに到着した自転車は、一人の少女の移動手段や荷車となり、彼女や家族の生活を支え、次のもらい手のところでは村の救急車として活躍する…。巻末には自転車の寄付活動の紹介や写真もある。環境を考える絵本。

＜読み物—小学校低学年から＞

『ぼく、ちきゅうかんさつたい』 松本聰美/作 ひがしちから/絵 出版ワークス 2017.5 ¥1400

ぼくは、地球観測隊の隊員第一号。学校から帰ったら真っ先に隊長であるおじいちゃんに今日一日の報告をするよ。いじわるなダイちゃんのこと、こいのぼりのこと、ひまわりのこと。隊長は、テレパシーで宇宙本部と交信できる力を僕に与えてくれ、発見ノートに記録をつけることを命じた。じきに隊長がいなくなっても、寂しくないように。オールカラーの挿絵が暖かい雰囲気を添える作品。

＜読み物—小学校中学年から＞

『空をけつとばせ』 升井純子/作 大島妙子/絵 講談社 2017.5 ¥1200

ゲーム好きで運動嫌いの小3の悠斗は、運動が得意な孝道について逆上がりができること嘘をついてしまったからさあ大変。夏休み中にできるようにと、一人で特訓を始めた。それを速くからそっと応援してくれる江口先生と、家業のスイカ作りを手伝いながら、サッカークラブに入部できるようリフティングの練習に励む時生。さて、結果は？ある夏休みの、友情と成長の物語。

＜読み物—小学校高学年から＞

『メキシコへ わたしをさがして』 パム・ムニョス・ライアン/作 神戸万知/訳 偕成社 2017.5 ¥1500

ひいおばあちゃんと、弟のオーウェンの3人でトレーラーハウスで暮らす少女ナオミの元に突然現れた実の母スカイラ。障がいのある弟は引き取らずに、新しいパートナーの彼とその娘、ナオミの4人で暮そうと言う。何とかその状況から逃れたいナオミは、実の父親を探しに、メキシコへ旅立つことに…。国を越え、ルーツに触れて、自分自身を見つける物語。

＜読み物—中学生から＞

『カーネーション』 いとうみく/作 くもん出版 2017.5 ¥1400

中1の日和(ひより)にとって「おうち」が一番緊張する場所。小2で妹が生まれたとき、あたしはお母さんに嫌われていると気づいた。母を怒らせたくない、好かれるようあらゆる努力をしたのに。父子家庭の桃吾に初めてその苦しみを打ち明けることができた日和は…。母に愛されない娘と娘を愛せない母親の互いの苦しみを描いた挑戦作。「くもんの児童文学」シリーズ。

『EVERYTHING, EVERYTHING わたしと世界のあいだに』 ニコラ・ユン/著 橋本恵/訳 静山社 2017.5 ¥1600

あらゆるものにアレルギー反応の発作を起こすマデリンは18歳になるまで家を出たことがない。医者ママと看護師のカーラに守られた無菌室内の私の生活に入り込んだのは、隣に引っ越してきた黒ずくめの彼オーリー。ママに内緒でメールのやり取り、殺菌消毒済みの彼との密会…。ついに命がけで外界へ飛び出した彼女が知った真実は…。ロサンゼルス在住の作者のデビュー作。

＜ノンフィクション—小学校中学年から＞

『かぞくがのみすぎたら』 リチャード・ラングセン/さく ニコール・ルーベル/え いなみまりお、たにぐちまち/かんしゅう ひさまつのりこ/やく サウザンブックス社(制作) 2017.1 ¥2000

アルコール依存症って何?なんで病気といわれるの?アルコール依存症の人の家族にはどんな影響があるの?お父さんが飲みすぎちゃうのは僕のせい?アルコール依存症について、かわいイラストでわかりやすく説明し、子どもの不安やおそれを和らげる。アルコール依存症の親をもち、苦しんでいる子どもたちの助けとなる絵本。患者数や相談窓口等、最新の日本の情報も掲載。

＜ノンフィクション—小学校高学年から＞

『おばあちゃんが認知症になっちゃった!』 宇津木聡史/文 河村誠/絵 星の環会 2017.4 ¥2800

一緒に暮らすおばあちゃんが最近忘れっぽくなり心配な小5の真菜。友だちから「認知症」という言葉を聞き不安になり、保健室の先生の元を訪ねることに。認知症の症状や原因、周りの人ができることなどについて、イラストを交え、ストーリー形式でわかりやすく解説する。保健室の先生が、病気にまつわる子どもたちの疑問に答えるシリーズ。他に、「インフルエンザ」「がん」。

＜ノンフィクション—中学生から＞

『日本—小さな農業高校の学校づくり 愛農高校、校舎たてかえ顛末記』 品田茂/著 岩波書店 2017.4 ¥880

三重県伊賀市にある日本で唯一の私立農業高校、愛農高校。耐震改修優秀建築賞を受賞した、愛農高校ならではの校舎づくりの顛末を、仕事をやめ事務局長として奔走した著者が紹介する。農業を学ぶ生徒たちの生活や校舎づくりの様子を、添えられた多くの写真とともに生き生きと語る。生徒も意見を述べ、間伐材を運び、校舎作りに積極的に関わっていく。岩波ジュニア新書。

＜研究書＞

『決定版グリム童話事典』 高木昌史/編著 三弥井書店 2017.4 ¥3800

19世紀初頭に刊行された『子供と家庭の童話集』(通称「グリム童話集」)の全210話及び初版のみ収録された22話のあらすじ、注釈、グリム原注及び話型を紹介。第2部以降では、モチーフの解説やグリム童話に関わりの深い人物名辞典、グリム兄弟の生涯と業績、年譜等の資料、エッセイも掲載する。昔話研究、グリム童話研究の基本となる書。図版も多数あり。